

■台湾：原子力委員会、第一原子力発電所の廃炉を正式に許可

2019年7月13日付の現地紙報道によると、台湾原子力委員会（原能会）は7月12日、第一原子力発電所の廃炉を正式に許可した。これを受けて台湾電力公司是、25年間を要する同発電所の廃炉作業を開始する。同発電所1号機は2018年12月5日に、また2号機も7月15日に、運開40年を迎えた。今後、初めの8年間で除染作業を開始し、その後の12年間で廃炉作業を実施、3年間のモニタリング期間の後、最後の2年間で最終的な作業を終了する。反原子力団体の緑色公民行動連盟の洪申翰事務局次長は、台湾のエネルギー転換のマイルストーンであると評価し、今後の安全管理と除染を徹底するよう求めた。一方、地元の新北市は廃炉に向けた使用済燃料の保管方法を巡って懸念を表明しており、台湾電力は同市当局と近く協議を行う予定である。